



# 須坂市の石造文化財

その 1

## 観世音・馬頭観世音



1980年 3月

須坂市教育委員会

## 序

昭和25年制定公布された「文化財保護法」によって、これまで保護の対象とされていた国宝・史跡名勝天然記念物のほかに、民俗資料・無形文化財及び埋蔵文化財が新たに保護の対象になり、文化財保護に一大転機を与えた。しかし、この法律は、現在の民俗文化財は、建造物、繪画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、民俗資料云々とあるように、有形文化財の一種として取扱われていた。これが昭和29年、文化財保護法の一部改正によって、民俗資料は、衣食住、生業、信仰、年中行事に関する風俗習慣及びこれに用いられる衣服、器具その他の物件で、わが国民生活の推移の理解のために欠くことのできないものであると明確に定義され、文化財の一分野として位置づけられ、その保護制度が確立された。

文化財というと、ややもすると、価値の高い歴史の証微または美術の模範となるべきものと、従来の観念にとらわれがちであるが、文化財保護法に明記してあるように、国民の生活の中心をなした衣食住は申すまでもなく、その生業、信仰等に関する物件は、先人の生活の推移を知ることのできる貴重な民俗文化財である。

須坂市教育委員会がこのことに留意し、庶民の生活と深い関係のもとにつくられながら今は野にあって、とかく見捨てられがちの石造文化財中、観音像や觀音仏名塔を逐一調査され、その所在を明らかにし、これが保存をはかられようとする努力に対して深い感銘をおぼえ、深甚の感謝をさきげたい。

昭和55年1月31日

長野県文化財保護審議会委員

米山一政

## 序

路傍にひっそりとたたずむ石仏は、私達の祖先がいろいろな願いをこめて造った庶民文化の遺産です。しかしこれらの石仏はどこにでもあるごくありふれたものですから、ともすれば粗末に扱いがちですが、1つ1つじっくりと見ればそれぞれに違った顔をもち、数十年あるいは数百年の風雪に耐えてきた庶民文化の力強いぶきが感じられます。

このようなことから、最近全国的に石仏に対する関心が高まって来ており、須坂市においてもいろいろな団体で石仏巡りを実施したり、小冊子も発刊されております。しかしそうした関心の高まりとともに、心ない人達によって石仏が破損されたり、持ち去られたりする事例も多くなってきました。

このため市教育委員会においては早急に保存対策をとるため、石造文化財の戸籍調べとともにるべき分布調査を実施することに決定したのが昭和49年であります。幸いにも今から20数年前にやはり市教育委員会が一度調査したものがありましたので、さっそく文化財調査員の皆さんにお願いし分布地図と1つ1つの調査票をつくっていただきました。非常に地道な手間のかかる作業でしたがようやく完了し、このたびその一部をまとめて刊行することになりました。

調査員の皆さんには心から感謝申しあげる次第であります。

またこの冊子が須坂市の文化財保護に役立ち、さらに石造文化財に关心を持たれる方の基礎資料となれば幸甚です。

昭和55年1月31日

須坂市教育委員会

教育長 北村 勇

## まえがき

須坂市教育委員会においてはつとに文化財の重要性に着眼し、その調査研究や保護・保存に努められた。すなわち、民俗資料の蒐集をはじめ有形・無形の文化財その他埋蔵文化財等の調査を行い、その調査結果を、昭和31年には第1集として「須坂市文化財（神社・寺院）」を、統いて昭和34年には第2集「須坂市文化財（仏像・民間信仰）」を公にされた。これによって単に須坂市のみならず須高地域の人々の文化財に対する関心が大いに昂揚し、裨益するところが多大であったと思われます。その後昭和44年、須坂市に文化財保護条例が制定され、調査・審議の委員を委嘱して「須坂市文化財」を指定し、また「須坂の年中行事」をはじめ、埋蔵文化財の発掘調査報告書等多数の調査研究報告書を刊行された。

このたびは、年と共に損なわれ、失われ、その姿を消していく野の仏をはじめ須坂市内の石造文化財保護・保存のために、文化財調査員に委嘱して限なくこれを調査し、分布図を作り、写真撮影を行って、須坂市の石造文化財集を逐次発刊されることになったことは時宜に適した好企画であると思われます。

野の仏といえば一般に地蔵尊や道祖神が多くて印象的であるが、須坂市内には觀世音菩薩が非常に多く、ことに馬頭觀世音が多かったので、第1刷は觀世音を発刊することとし、それを2部に分けて「觀世音」の部と「馬頭觀世音」の部にされた。

委嘱を受けた調査員としては、調査の粗漏をおそれているのであります、忌憚のない批判と指摘・助言を頂いて今後の完成を期したいと願っております。

幸い米山一政先生のご校閲を得て、不備を補って頂けたことはこの上ない悦びがありました。

なおこの調査にあたって、教育委員会の小林詔夫・金井正三の両氏が調査員を督励し、山野を駆走して所在を確認し、写真的撮影や銘文の解説に挺身されたご労苦を多とし謝意を表します。

昭和55年1月31日

須坂市文化財調査委員会

会長 德永哲夫

## 例　　言

1. 本書は須坂市教育委員会が、須坂市文化財調査員に委嘱して昭和49年より分布調査を行った須坂市内の石造文化財のうち、各種觀世音及び馬頭觀世音の報告書である。
2. (財)仁礼会が管理している、西原公会堂前からはじまるいわゆる旧大篠街道の石仏群は別にまとめる予定である。なお、この他の市内で確認されたものをすべて載せたつもりであるが、長い年月の間に風化して種類の判別がつかないものがあり、また各所に散在しているために調査からもれたものもあると思われる。この点をご理解いただき、新発見のものがありましたらご指摘いただければ幸甚です。
3. 登載した石造文化財には種類ごとに一連番号を付して、市内を以下の8地区に分け、それぞれの地区毎の分布地図に記入した。

- ① 豊洲地区 ② 日滝地区 ③ 日野地区 ④ 須坂地区  
⑤ 高甫地区 ⑥ 井上地区 ⑦ 東地区(1) ⑧ 東地区(2)

図中「観1」は「觀世音1」、「馬1」は「馬頭觀世音1」である。

4. 他の石造文化財についてはまとめたものから順次発刊していく予定である。
5. 直接本調査に当られた須坂市文化財調査員は次の各氏である。記して謝意を表します。  
小川 忠 (塩川町) 廣瀬紀子 (相森町) 霜田圭一 (穀町) 西沢隼人 (塩野町)  
目黒淳茂 (仁礼町) 青木友雄 (奉高町) 滝沢二郎 (東横町) 青木広安 (屋部町)  
町田忠彦 (上八町) 山岸勝之助 (高橋町) 土屋重雄 (小島町) 山崎邑吉 (本郷町)  
三木慶一 (相之島町) 德永哲夫 (村山町)
6. 本書の概観の項は徳永哲夫が執筆し、写真撮影、計測及び銘文判読等は社会教育課小林詔夫 (昭和50~51年度) と金井正三が担当した。
7. 本書の編集は社会教育課で行い、長野県文化財保護審議会委員米山一政氏の校閲を受けた。

## 目 次

序	長野県文化財保護審議会委員	米山一政
序	須坂市教育委員会教育長	北村 奒
まえがき	須坂市文化財調査員会会長	徳永哲夫
例 言		
目 次		
1.	観世音・馬頭観世音の分布	1
	豊洲地区分布図	2
	日滝地区分布図	3
	日野地区分布図	4
	須坂地区分布図	5
	高甫地区分布図	6
	井上地区分布図	7
	東地区分布図（1）	8
	東地区分布図（2）	9
2.	観世音の部	11
	「観世音」の部について	12
	豊洲地区	13
	日滝地区	13
	須坂地区	14
	高甫地区	17
	井上地区	20
	東地区	20
3.	馬頭観世音の部	25
	「馬頭観世音」の部について	26
	豊洲地区	27
	日野地区	30
	須坂地区	31
	高甫地区	35
	井上地区	41
	東地区	44
あとがき	須坂市教育委員会社会教育課長	竹前福治

1、觀世音・馬頭觀世音  
の分布



豊丘・大日向の石仏群



第1図 豊洲地区観世音・馬頭観世音分布図 (1:20,000)



第2図 日滝地区観世音分布図 (1:20,000)



第3図 日野地区馬頭観世音分布図 (1 : 20,000)



第4図 須坂地区観世音・馬頭観世音分布図 (1 : 20,000)



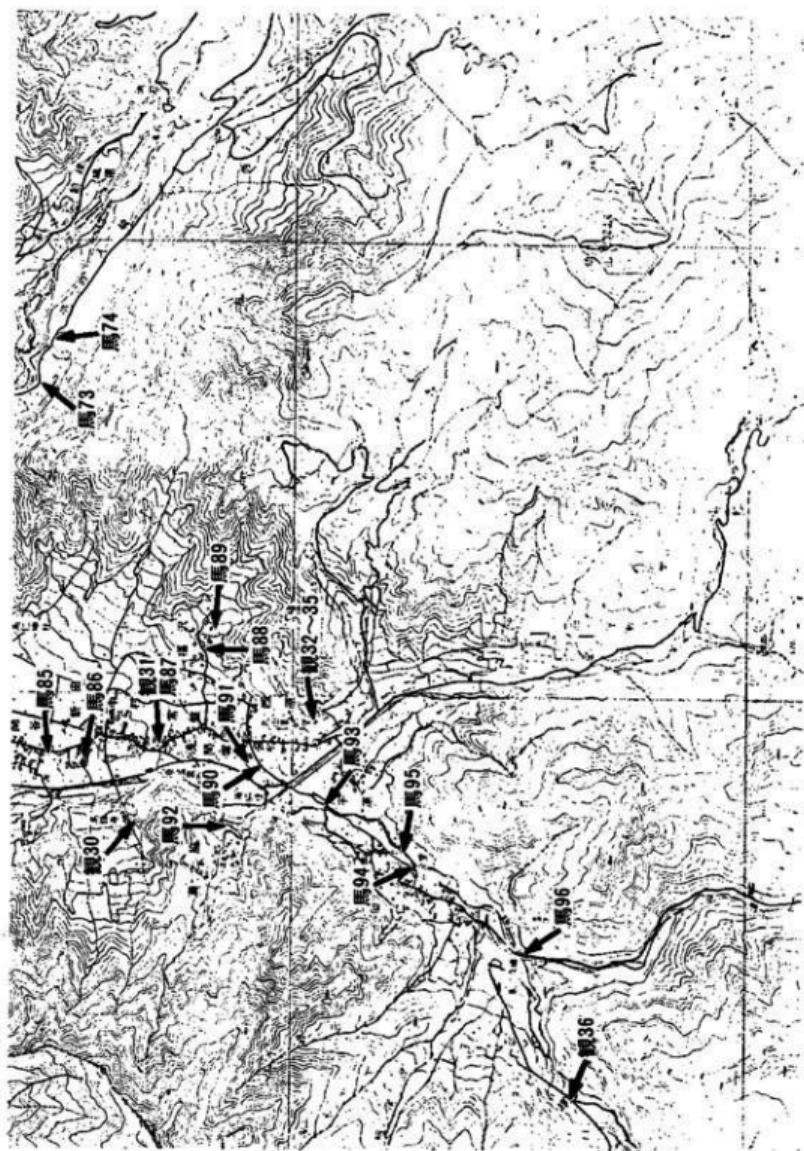
第5図 高南地区観世音・馬頭観世音分布図 (1:20,000)



第6図 井上地区観世音・馬頭観世音分布図 (1:20,000)



第7図 東地区観世音・馬頭観世音分布図(1) (1:25,000)



第8図 東地区観世音・馬頭観世音分布図(2) (1 : 25,000)



2、觀世音の部



臥竜山百番觀世音

## 「觀世音」の部について

一般に如来さんあるいは仏さんと一口にいっているが、実は形の上からもまた観音の上からも色々な区別がある。たとえばお釈迦さんや阿弥陀さんは、本当に「如来（仏）」であるが、觀音さんや地藏さんは、本当は如来さんとはいわないで「菩薩」であるから、觀世音菩薩・地藏菩薩という方が正しい。また、不動さんや愛染さんは「明王」であるから不動明王・愛染明王というべきである。また弁天さんや大黒さんは正しくは弁才天・大黒天といつて「天」なのである。このように如来（仏）の像・菩薩の像・明王の像・天の像・神将の像・権現の像・祖師の像など色々な区別があるのであるが、一括總称して仏像といいならわされ、また同じもののように扱われているのである。なおまた石仏などの場合は以上の外に道祖神その他一切を含めて「石仏」と呼んでいる。さて觀世音菩薩について

觀世音菩薩 といってもやはり色々あって、聖觀世音・如意輪觀世音・千手觀世音・十一面觀世音・馬頭觀世音・不空羂索觀世音・准提觀世音の七觀世音（1つを除いて六觀世音ともいっている）があるが、須坂市内には馬頭觀世音が非常に多くあったので「馬頭觀世音」と「觀世音」とに分類した。（臥竜山百番觀世音と大坂街道の石仏・奇妙山の石仏については後日報告がある）

須坂市内の石造觀世音は浮出し半肉彫り20体、線彫り10体、文字彫り6体、総じて36体であった。この中で栃倉・觀音寺の六觀世音は6体が全部揃っており、非常に希有な例である。

建立の年代についてみると、最古のものは延享元年（1944）で、これをはじめとして江戸時代のもの9体、明治時代のもの5体、大正時代のもの2体であって、年代不明のものが20体あった。年代不明のものもおよそ、觀世音信仰の推移やその技法、損傷磨滅の度合から見ても江戸時代以降のものであると思われる。建立年代の外銘文の明らかなものは少いが、造立の施主や発願人の刻まれているものが5体程あって、なおまた、道しるべを兼ねているものが2体あって、「右ハ不動道、左ハ東山道」とか「右ハやまみち、左ハほしなみち」とあって、それによって生きそれを頗りに歩いていた巡礼や旅人の姿が彷彿する。そしてまた雨露に晒されて像も文字も不明になっているものを見るにつけても、村人の生と死をひそかに見送りながら、自らも老いていく野の仏に無限の哀愁を感じずにはいられない。

このように觀世音の石仏が多いということはもちろん、觀世音信仰の深かったことを思わせられる。信濃觀音巡礼三十三番札所の布置を見ても北信に15ヶ所、そのうち須坂市内には九番所観音堂と妙徳山高頭寺の2ヶ所に配置されている。また市内には古くから由緒のある觀音堂がいくつかある。北向觀音堂、六角堂觀音堂、天德寺觀音堂、大谷觀音堂、相之島觀音堂などがあって信仰の中心になっていた。このような觀世音信仰が庶民のものになって野に下り立ち、庶民の生死の依りどころになっていたことは尊いことである。その父祖の心を心として大切に受け継いでいかなければならぬことが切に思われる。

最後にこれらの石仏を心をこめて刻んだ人達を知りたいと願ったが遂に知ることを得なかった。わずかに木曾谷に彫仏師が居たらしいと聞いたのみであった。

番号 観1  
 名称 如意輪觀世音  
 種別 觀世音  
 形態 舟型高肉彫り半跏思惟坐像  
 法量 總高58cm 像高42cm  
 銘文 不詳  
 所在地 新田町旧公会堂東側  
 備考 上部欠損



番号 観2  
 名称 聖觀世音  
 種別 觀世音  
 形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
 法量 總高83cm 像高58cm  
 銘文 不詳  
 所在地 小島町新田水田中



番号 観3  
 名称 聖觀世音  
 種別 觀世音  
 形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
 法量 總高109cm 像高77cm  
 銘文 なし  
 所在地 本郷町溜池北東隅の堤上  
 備考 溜池で子供達が事故死のないよう  
に守護する觀世音だという信仰が  
あった。俗称「子安觀世音」



観号 観4  
 名称 如意輪観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型高肉彫り思惟半跏坐像  
 法量 總高150cm 像高62cm  
 銘文 安永四乙□□  
 六月末九日  
 牧氏定熙並世話人横町九なう  
 所在地 馬場町六角堂境内



観号 観5  
 名称 如意輪観世音  
 種別 観世音  
 形態 丸彫り思惟半跏坐像  
 法量 總高140cm 像高82cm  
 銘文 観音 □□□  
 所在地 横町301-1 采樂バチンコ店蔵  
 備考 交通安全隐患という名前がつけ  
 られている。



観号 観6  
 名称 如意輪観世音  
 種別 観世音  
 形態 丸彫り思惟半跏坐像  
 法量 總高104cm 像高42cm  
 銘文 なし  
 所在地 境沢町真養寺前



番号 観7  
 名称 臥龍山百番觀世音  
 種別 觀世音  
 形態 自然石 絵像牌  
 線彫り  
**備考** 臥龍山百番觀世音は明和三年(1966)から四年にかけて興國寺二十世瑞応和尚の協力で牧定照が発起人となり、この趣旨に賛同した人々の寄進により建立された。  
 なお臥龍山には同じものも10数基あるため総数は120基をこえるものと思われる。  
 (須坂市文化財 仏像・民間信仰  
 須坂市教育委員会 昭和34年)



番号 観8  
 名称 深提觀世音  
 種別 觀世音  
 形態 板碑型線彫り坐像  
 法量 縦高82cm 像高67cm  
 銘文 不詳  
 所在地 星部町



番号 観9  
 名称 如意輪觀世音  
 種別 觀世音  
 形態 舟型高肉彫り思惟半跏坐像  
 法量 縦高88cm 像高63cm  
 銘文 不詳  
 所在地 板田町天徳寺前十字路北西隅  
**備考** 風化が進んでいる。





番号 観10  
名称 型觀世音  
種別 觀世音  
形態 丸彫り坐像  
法量 高110cm 像高63cm  
銘文 不詳  
所在地 板田町天徳寺前十字路

番号 観11  
名称 型觀世音  
種別 觀世音  
形態 角型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高51cm  
銘文 延享元年 吉日 □供□□□  
所在地 板田町天徳寺参道登口北側脇



番号 観12  
名称 富蔵觀世音  
種別 觀世音  
形態 立石文字彫込み  
法量 高230cm  
銘文 富蔵觀世音  
所在地 明治十七年四月建之 講中  
板田町天徳寺本堂右手



番号 観13  
名称 千手觀世音  
種別 觀世音  
形態 台付立石像・線彫坐像  
法量 縦高190cm 像高150cm  
銘文 北向 厄除  
所在地 野辺町桜ノ木(北入口)  
備考 大正14年4月再興

番号 観14  
名称 百番觀世音  
種別 觀世音  
形態 台付立石文字彫込み  
法量 縦高131cm  
銘文 西国 板東 秩父 当國 觀世音  
所在地 野辺町桜ノ木東方



番号 観15  
名称 十一面觀世音  
種別 觀世音  
形態 台付立石線彫り立像  
法量 縦高164cm 像高118cm  
銘文 慶応四辰年三月  
所在地 野辺町公会堂





番号 観16  
名称 別観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石線彫り座像  
法身 高112cm  
銘文 奉誦高王經卷千巻  
所在地 野辺町鶴原豊守神社北側



番号 観17  
名称 千手観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石線彫り圓像  
法身 高216cm  
銘文 北向厄除写  
所在地 野辺町鶴原豊守神社



番号 観18  
名称 圣觀世音  
種別 観世音  
形態 舟型薄肉彫り立像  
法身 高76cm 像高61cm  
銘文 右ハ不動道  
左ハ東口道  
所在地 野辺町鶴原豊守神社

番号 観19  
 名称 聖観世音  
 種別 観世音  
 形態 角型薄肉彫り立像  
 法量 像高63cm  
 銘文 □国西国坂東秋父（左は不詳）  
 所在地 野辺町から井上町への道添



番号 観20  
 名称 清水觀世音  
 種別 観世音  
 形態 立石文字彫込み  
 法量 縦高102cm 像高51cm  
 銘文 清水觀世音  
 明治四年拾月  
 村石□五郎  
 所在地 下八町村石大二郎氏宅屋敷



番号 観21  
 名称 富蔵觀世音  
 種別 観世音  
 形態 立石文字彫込み  
 法量 像高107cm  
 銘文 富蔵觀世音  
 大正拾一年拾月  
 所在地 上八町真光寺南方





番号 観22  
名称 六角堂觀世音  
種別 觀世音  
形態 板型図像線刻彩色坐像  
法量 縦高190cm 像高141cm  
銘文 六角堂觀世音  
明治二十二年  
施主 神林柿之助 関野久佐エ門  
町田清作  
第五月吉日  
所在地 上八町県道添南



番号 観23  
名称 聖觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 縦高75cm 像高59cm  
銘文 □□□十一月十七日  
井上□□□□□十人  
所在地 井上町阿弥陀堂

番号 観24  
名称 觀世音  
種別 觀世音  
形態 立石図像線刻  
法量 像高214cm  
銘文 明和六己丑十一月  
市川広左門作之  
所在地 豊丘町観音堂



番号 観25  
 名称 聖観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型高肉影り立像  
 法量 縦高152cm 像高91cm  
 銘文 寛政元己酉年  
       西国 四國 秩父  
       坂東 信濃頃口  
       三月二十二日  
 所在地 豊丘町観音堂



番号 観26  
 名称 観世音  
 種別 観世音  
 形態 立石文字彫込み  
 法量 縦高190cm 像高144cm  
 銘文 寛政三亥四月 米子村  
       願主 要津  
 所在地 米子町字寺内養堂山トンネル入口



番号 観27  
 名称 富蔵山観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫込み  
 法量 縦高165cm 像高103cm  
 銘文 明治廿拾五年五月造立  
       富蔵山観世音  
       竹前元治  
 所在地 米子町字持居米子川北岸

番号 級28  
 名称 観世音  
 種別 観世音  
 形態 角型線刻図像  
 法量 像高60cm  
 銘文 明治十一年  
 所在地 仁礼町板倉観音寺



番号 級29  
 名称 六觀世音  
 種別 観世音  
 形態 丸形り立像  
 法量 像高120cm前後 像高80cm前後  
 銘文 なし  
 所在地 仁礼町板倉観音寺  
 備考 左から千手観世音、馬頭観世音、如意輪観世音、准提観世音、聖觀世音、十一面観世音



番号 級30  
 名称 西国三十三觀世音  
 種別 観世音  
 形態 角型浮出し半肉形り坐像  
 法量 像高40~70cm  
 銘文 西国写〇番  
 所在地 仁礼町 高顯寺  
 備考 30体あり  
 百番観世音のうちの西国三十三観世音



番号 観31  
名称 聖観世音  
種別 観世音  
形態 角型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高63cm  
銘文 なし  
所在地 仁礼町仁礼



番号 観32  
名称 聖観世音  
種別 観世音  
形態 丸彫り立像  
法量 總高105cm 像高75cm  
銘文 施主 拾五人  
元禄十五年  
六月六日  
仁礼浅間塚村  
所在地 仁礼町西原丸山薬師堂



番号 観33  
名称 秩父二十四番観世音  
種別 観世音  
形態 板型線彫り坐像  
法量 像高106cm  
銘文 秩父廿四番  
所在地 仁礼町西原丸山薬師堂



番号 観34  
名称 聖觀世音  
種別 観世音  
形態 丸彫り坐像  
法量 縦高110cm 像高67cm  
銘文 文化十二乙亥年 施主当所  
前總持  
十一世純向善来大和尚禪師  
長□ 十二月十四日 筆子中  
所在地 仁礼町西原丸山豪師堂



番号 観35  
名称 聖觀世音  
種別 観世音  
形態 丸彫り坐像  
法量 縦高118cm 像高75cm  
銘文 なし  
所在地 仁礼町西原丸山豪師堂

番号 観36  
名称 聖觀世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 縦高90cm 像高63cm  
銘文 安永三年五月廿日  
右ハヤマミチ  
左ハホシナミチ  
所在地 仁礼町仙仁字芦ノ沢



3、馬頭觀世音の部



井上・阿弥陀堂の馬頭觀世音群

## 「馬頭観世音」の部について

馬頭観世音は六觀世音の1つである。ふつうは観音さまといえば、暖かい慈悲のかたちであるが、馬頭観世音の場合は忿怒相<sup>ふんぬじやく</sup>といって恐ろしい怒りの形相をしている。これは慈悲では教化し難いものたちのためには仏が怒りの姿をもって救い上げようとするものである（はたらきが「明王」に似ていることから「馬頭大士」あるいは「馬頭明王」とも呼ばれている）。馬頭観世音は頭上に宝馬を頂いているのが特徴で、三面六臂がふつうの姿である。

馬頭観世音の数 須坂市内に建立されている馬頭観世音の数は、浮出し半肉彫り35体、線彫り1体、文字彫り60体の合計96体である。

建立の年代 建立の年代別をみると、江戸時代のもの27体、明治時代のもの23体、大正時代のもの5体、昭和時代のもの9体、年代不明のもの32体である。この不明のものも損傷の状態から推察するとおおむね明治時代あるいはそれ以前の江戸時代のものかと思われる。なお最古のものは寛保二年戊午（1742）のもので、最新のものは昭和四十六年（1971）のものである。これによってみると、馬頭観世音の建立は江戸時代から明治時代のものが圧倒的に多数である。

特色のある馬頭観世音 特色のあるもの2、3を挙げてみると、まずその1つは唯1つの線刻図像である（馬19）。これは臥竜山離れ山（南原）の東の道添いにあるもので、建立は「安政四年夏吉祥日」（1857）、「願主当町惣治」とある。そしてなお「土佐秀信因藍溪拝寫」と刻まれ、実に丁寧な絵像で気品も高い。覆屋を設けて破損を防いでいる。その2は福島町北入口の像碑であるが（馬52）、実際に整った立派な舟型浮出し半肉彫りの體像である。三面六臂の馬頭観世音の像が四重の台座に据えられてある。基壇が道標になっていて、「右中野道 小布施道 左北国街道 布野渡船善光寺道」と刻んである。その3は福島宿のものと同じように、道しるべを兼ねて、「右八丁 左野辺」（馬37）、「右ハ仁礼道 左ハ米子ふどう道」（馬44）などというものがあり、いずれも江戸時代のものである。

馬頭観世音の分布 馬頭観世音は井上地区に8体、高甫地区に19体、仁礼地区に30体、豊丘地区に14体で合計71体、市内全体の74%を占めている。これは江戸時代末期から明治26年に信越線が直江津まで開通するまでの間は、北国街道から上州へ行く道として大坂街道（福島宿——八丁——仁礼宿——大坂）と三原道（灰野——千俣）の利用が非常に盛んであって、その交通運輸をもっぱら馬が担当し福島や仁礼は中馬の宿として繁栄したのである。当時の人々がこの馬を慈しみあるいは供養した安全を念願して建立したのがこれらの馬頭観世音なのである。豊洲・日野・須坂・小山各地区に散在するものもちろん、当時の人達の馬と共に往還安穏なれとの悲願の馬頭観世音である。この馬頭観世音も恐らく昭和四十六年建立のものが最後となり果てるものであろうか。ちなみに

牛馬の飼育数 を調べてみると、明治十数年前後には、現在の須坂市全域において、馬334頭（内仁礼・高甫・豊丘地区合計301頭）、牛272頭（内仁礼・高甫・豊丘地区合計257頭）であったが年を逐って減少し、昭和五十四年末には須坂市内全域に馬は10頭を数えるのみとなってしまった。

番号 馬1  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫込み  
 法量 高43cm 像高30cm  
 銘文 明治三十一年  
     馬頭観世音  
     八月十九日 祖井  
 所在地 松川町日淹境松川端



番号 馬2  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫込み  
 法量 高200cm 像高110cm  
 銘文 天保五甲午年正月吉日  
     上州出 油屋仲門 松年□□  
     世話人 □□利□郎 田中武右  
     能登屋 佐渡屋佐太七  
 所在地 高畠町上松川道分岐点



番号 馬3  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
 法量 像高48cm  
 銘文 享和三〇年九月  
     (他不詳)  
 所在地 高畠町県道添  
 備考 上部欠損





番号 馬4  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 卐型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高51cm  
銘文 不詳  
所在地 南小河原町中央より柳清水への道  
添



番号 馬5  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 卐型彫込み半肉彫り立像  
法量 像高57cm  
銘文 明治一〇三年  
所在地 小島町植木家屋敷



番号 馬6  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 立石文字彫込み  
法量 高142cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 相之島町北方県道添

番号 馬7  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 立石文字彫込み  
法量 總高38cm  
銘文 馬頭觀世音  
所在地 相之島町北方県道添



番号 馬8  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 總高55cm  
銘文 馬頭觀世音  
所在地 相之島町中央県道添



番号 馬9  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 柱状立石文字彫込み  
法量 總高104cm 像高43cm  
銘文 馬頭觀世音  
□□五壬年  
所在地 相之島町神社西





番号 馬10  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型彫込み半肉彫り立像  
法量 像高44cm  
銘文 不詳  
所在地 八重森町中央三又路  
備考 全体的に欠損著しい

番号 馬11  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 積高69cm 像高52cm  
銘文 なし  
所在地 八重森町中央三又路



番号 馬12  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 積高87cm 像高55cm  
銘文 安永六西  
八月吉日  
所在地 村山町中央土手添  
備考 上部欠損



番号 馬13  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高38cm  
銘文 なし  
所在地 東横町延命地蔵堂境内  
備考 上部欠損

番号 馬14  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 板型文字彫り込み  
法量 像高43cm  
銘文 馬頭観世音 稲田氏  
所在地 東横町1436番地稲田方



番号 馬15  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 橋高101cm 像39cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 上町寿泉院境内



番号 馬16  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 高90cm  
 銘文 明治二十五年十月建之  
 馬頭観世音  
 所在地 板田町坊主山



番号 馬17  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 板型文字彫り込み  
 法量 高62cm 像高44cm  
 銘文 大正七年吉日建之  
 馬頭観世音  
 所在地 板田町天徳寺前十字路北西脇



番号 馬18  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型梵字及び文字彫り込み  
 法量 像高55cm  
 銘文 富蔵馬頭観世音  
 所在地 南原町臥竜山離山東側道添



番号 馬19  
名称 馬頭觀世音  
種別 観世音  
形態 舟型線彫図像  
法量 像高142cm  
銘文 土佐秀信図 藍溪洋寫  
安政四丁巳年夏吉祥日  
願主 当町 仁慈治  
所在地 南原町臥龍山離山東側道添

番号 馬20  
名称 馬頭觀世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 縦高67cm 像高55cm  
銘文 安永二癸巳天  
八月十九日  
所在地 小山町根入観音堂



番号 馬21  
名称 馬頭觀世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 縦高75cm 像高62cm  
銘文 文化元子年十月吉日  
□□□屋  
所在地 小山町根入観音堂



番号 馬22  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 像高17cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 天保十五甲辰年三月十七日  
小山町小学校南



番号 馬23  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 像高46cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 小山町公会堂向かい



番号 馬24  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 縦高78cm 像高57cm  
銘文 馬頭観世音  
(他は不詳)  
所在地 屋部町小山境墓地東  
備考 表面がかなり風化している

番号 馬25  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 縦高191cm 像高123cm  
 銘文 馬頭観世音  
 昭和十三年十月  
 所在地 里部町南方米持道添  
 備考 記念碑と並置されている



番号 馬26  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 板碑型文字彫り込み  
 法量 縦高158cm 像高96cm  
 銘文 馬頭観世音  
 康熙四年  
 所在地 村石町地蔵堂



番号 馬27  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付舟型文字彫り込み  
 法量 縦高85cm 像高43cm  
 銘文 馬頭観世音  
 明治十二〇〇年  
 所在地 村石町中央明徳町への道の分岐点





番号 馬28  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付板型文字彫り込み  
法量 縦高62cm 像高52cm  
銘文 大正元年十一月十三日  
馬頭観世音  
小泉弥藏  
所在地 村石町神社東方



番号 馬29  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 縦高76cm 像高49cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 野辺町桜ノ木（北入口）  
備考 彫が浅くきわめて不鮮明



番号 馬30  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 像高104cm  
銘文 馬頭観世音  
天保十四年八月  
中沢□□  
所在地 野辺町桜ノ木（北入口）

番号 馬31  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 總高125cm 像高88cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 野辺町北方



番号 馬32  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 總高135cm 像高97cm  
銘文 馬頭観世音  
(他は不詳)  
所在地 野辺町東十字路



番号 馬33  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高54cm  
銘文 寛延□□  
所在地 野辺町神社南西不動道添  
備考 損傷著しい。同一場所に4基あり  
以下3基同類





番号 馬34  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型彫り込み半肉彫り立像  
法量 像高62cm  
銘文 不詳  
所在地 野辺町神社南西不動道添  
備考 捨馬著しい



番号 馬35  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高49cm  
銘文 不詳  
所在地 野辺町神社南西不動道添



番号 馬36  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 高190cm 像高150cm  
銘文 雅時文久三癸亥年九月上浣日  
馬頭觀世音  
伊藤氏  
所在地 野辺町広正寺東

番号 馬37  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 縦高121cm 像高104cm  
 銘文 右八丁  
 馬頭観世音  
 左野辺安政二乙卯年  
 所在地 野辺町から井上町への道添  
 備考 道標を兼ねる



番号 馬38  
 名称 馬頭観世音  
 形態 舟型文字彫り込み  
 法量 縦高98cm 像高80cm  
 銘文 馬頭観世音  
 明治四拾一年  
 酒井藤五郎  
 所在地 上八町三入道墓地偶



番号 馬39  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 縦高165cm 像高102cm  
 銘文 明治四拾三年一月日  
 馬頭観世音  
 町田口之助  
 所在地 上八町駄川午橋北





番号 馬40  
名称 馬頭觀世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 像高60cm  
銘文 馬頭觀世音  
所在地 上八町鶴川牛橋南方



番号 馬41  
名称 馬頭觀世音  
種別 観世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 像高42cm  
銘文 元治元年八月  
馬頭觀世音  
所在地 上八町蛇塚鶴川の南端



番号 馬42  
名称 馬頭觀世音  
種別 観世音  
形態 石塔型文字彫り込み  
法量 像高48cm  
銘文 寛政三辰年  
馬頭觀世音  
十月二十日  
三十一才 村石氏  
所在地 下八町前山薬師庵参道

番号 馬43  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 高119cm 像高93cm  
 銘文 昭和十年五月十七日  
       北向山 馬頭観世音  
       町田寅徳助建立  
 所在地 上八町北西隅



番号 馬44  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 像高73cm  
 銘文 馬頭観世音  
       右へ仁礼□□道  
       左ハ米子ふどう道  
       施主井上村□右一門  
       安政二乙卯八月吉日  
 所在地 下八町井上境鰯川南



番号 馬45  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 立石文字彫り込み  
 法量 像高41cm  
 銘文 明治十七甲九月吉日  
       □□観世音  
       □本傳治  
 所在地 井上町阿旁託堂





番号 馬46  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 角型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高51cm  
銘文 なし  
所在地 井上町阿弥陀堂



番号 馬47  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 角石柱文字彫り込み  
法量 總高60cm 像高45cm  
銘文 馬頭觀世音  
所在地 井上町阿弥陀堂



番号 馬48  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 角石柱文字彫り込み  
法量 總高55cm 像高43cm  
銘文 明治十年  
馬頭觀世音  
十月三日藤沢  
所在地 井上町阿弥陀堂

番号 馬49  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型高肉彫り立像  
法量 像高46cm  
銘文 天保十一子□年  
所在地 井上町阿弥陀堂



番号 馬50  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 縦高56cm 像高44cm  
銘文 不詳  
所在地 井上町阿弥陀堂



番号 馬51  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 板型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高49cm  
銘文 不詳  
所在地 幸高町秀泉寺





番号 馬52  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 倉型浮出し半内彫り騎像  
法量 總高315cm 像高126cm  
銘文 右 中野道 小市施道  
左 北国街道 布野渡船  
善光寺造  
所在地 福島町北入口堤東  
備考 基壇が道標になっている。  
築堤の際に堤西側から現在地に移された



番号 馬53  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 倉型浮出し半内彫り立像  
法量 像高52cm  
銘文 不詳  
所在地 豊丘町大日向坂田境



番号 馬54  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 倉型文字彫り込み  
法量 像高42cm  
銘文 明治卅年  
馬頭観世音  
所在地 豊丘町大日向奈良川添

番号 馬55  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 像高49cm  
銘文 大正二年四月一日  
馬頭観世音  
大正二年十一月廿二日  
所在地 豊丘町大日向奈良川添



番号 馬56  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高42cm  
銘文 不詳  
所在地 豊丘町大日向奈良川添



番号 馬57  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 像高52cm  
銘文 明治三十五年  
馬頭観世音  
十二月一日 江森造  
所在地 豊丘町大日向奈良川添





番号 馬58  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 板碑型文字彫り込み  
法量 像高60cm  
銘文 大正十一年十一月四日  
馬頭観世音  
番名 小林号  
所在地 豊丘町大日向奈良川添



番号 馬59  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 角型文字彫り込み  
法量 像高49cm  
銘文 明治廿九年  
馬頭観世音  
七月十九日  
所在地 豊丘町大日向奈良川添



番号 馬60  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 立石文字彫り込み  
法量 像高46cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 豊丘町大日向奈良川添

番号 馬61  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 像高51cm  
銘文 昭和三年四月十五日  
馬頭觀世音  
石橋春治郎  
所在地 豊丘町大日向奈良川添



番号 馬62  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 像高48cm  
銘文 明治四十年  
馬頭大土  
二月一日  
所在地 豊丘町大日向奈良川添



番号 馬63  
名称 馬頭觀世音  
種別 觀世音  
形態 高肉彫り坐像  
法量 総高101cm 像高82cm  
銘文 文化十四年  
七月七日  
所在地 豊丘町大日向奈良川添





番号 馬64  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 板碑型文字彫り込み  
法量 像高66cm  
銘文 昭和四年七月  
馬頭観世音  
山岸長太郎之建  
所在地 豊丘町大日向奈良川派



番号 馬65  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 板型文字彫り込み  
法量 縦高185cm 像高117cm  
銘文 昭和四十六年四月七日亡  
馬頭観世音  
大能和平建之  
所在地 豊丘町中田北



番号 馬66  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 縦高258cm 像高180cm  
銘文 昭和九年三月  
主催豊丘愛馬俱楽部  
後援北信畜産組合  
(その他多数)  
所在地 豊丘上町保育園前



番号 馬67  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 立石文字彫り込み  
法量 像高46cm  
銘文 馬頭観世音  
(他は不詳)  
所在地 塩野町橋平



番号 馬68  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 立石文字彫り込み  
法量 像高85cm  
銘文 天保十一  
馬頭観世音  
子四月廿日 竹前氏  
所在地 米子町字宮ノ原宮坂道添



番号 馬69  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高54cm  
銘文 享和二年  
戊五月日  
所在地 米子町字宮ノ原宮坂道添

号  
馬70  
 名  
馬頭觀世音  
 種  
觀世音  
 形  
立石文字彫り込み  
 法  
總高95cm 像高66cm  
 銘  
馬頭觀世音  
 所在地  
米子町中村南方墓地北



号  
馬71  
 名  
馬頭觀世音  
 種  
觀世音  
 形  
角石柱文字彫り込み  
 法  
像高38cm  
 銘  
明治三十八年十一月十九日  
馬頭觀世音  
上高井郡□山米子  
 所在地  
米子町上組道路添  
 備  
考  
銘文は「仁礼村碑石調査」による。



号  
馬72  
 名  
馬頭觀世音  
 種  
觀世音  
 形  
舟型文字彫り込み  
 法  
像高56cm  
 銘  
明治三十五年三月二日  
馬頭觀世音  
竹前姓  
 所在地  
米子町上組道路添





番号 馬73  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 角型浮出し半肉彫り立像  
法量 高62cm 像高54cm  
銘文 明和七庚十一月吉日  
□□施  
所在地 亀倉町字海老在家不動山莊跡



番号 馬74  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 角型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高51cm  
銘文 天保三辰年  
七月二十一日  
所在地 亀倉町字十二奥山道添



番号 馬75  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 角型彫り込み半肉浮彫り立像  
法量 像高47cm  
銘文 明治十六年  
三月十三日  
所在地 亀倉町中央石橋安人氏屋敷

番号 馬76  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
 法量 身高69cm 像高52cm  
 銘文 享和三亥年  
 又右ニ門  
 所在地 亀倉町新田東支所北方



番号 馬77  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型文字彫り込み  
 法量 身高66cm 像高51cm  
 銘文 明治三十九年  
 馬頭観世音  
 三月三十日  
 所在地 亀倉町新田



番号 馬78  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 舟型高肉彫り立像  
 法量 現存高42cm  
 銘文 □□十二年 仁礼村  
 所在地 仁礼町柳倉道六神  
 備考 上部欠損





番号 馬79  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 板型文字彫り込み  
法量 像高41cm  
銘文 馬頭観世音  
嘉永二西年  
所在地 仁礼町柄倉道六神



番号 馬80  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半内彫り立像  
法量 像高46cm  
銘文 明治□年  
明治九□□  
所在地 仁礼町柄倉道六神



番号 馬81  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型文字彫り込み  
法量 像高44cm  
銘文 明治十三年  
馬頭観世音  
辰三月二十日  
所在地 仁礼町柄倉道六神

番号 馬82  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 角型薄肉彫り立像  
 法量 像高55cm  
 銘文 明治九子年  
 所在地 仁礼町柄倉観音寺



番号 馬83  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 角型文字彫り込み  
 法量 像高40cm  
 銘文 明治二十一年  
 馬頭観世音  
 所在地 仁礼町柄倉観音寺



番号 馬84  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 像高280cm  
 銘文 文化六年己巳春三月吉日  
 馬頭観世音  
 馬元長祥書  
 仁礼宿  
 所在地 仁礼町新田北方旧道添





番号 馬85  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 角型浮出し半肉彫り立像  
法量 約高54cm 像高44cm  
銘文 十月□□  
所在地 仁礼町新田旧道添和久井宅  
備考 昭和31年水道工事の折発見  
左下半部コンクリート補修



番号 馬86  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 台付立石文字彫り込み  
法量 約高76cm 像高49cm  
銘文 馬頭観世音  
明治四十二酉年九月二十八日  
建之  
所在地 仁礼町新田



番号 馬87  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 角型高肉彫り立像  
法量 約高56cm  
銘文 なし  
所在地 仁礼町仁礼

番号 馬88  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し薄肉彫り立像  
法量 總高64cm像高51cm  
銘文 文化十甲戌年  
所在地 仁礼町福沢  
備考 梵字あり



番号 馬89  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 立石文字彫り込み  
法量 像高105cm  
銘文 馬頭観世音  
所在地 仁礼町福沢山岸家屋敷



番号 馬90  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 總高102cm 像高81cm  
銘文 明治九壬辰十月  
所在地 麻間塚中敬立  
仁礼町浅間塚





番号 馬91  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 丸形り立像  
法量 約高63cm  
銘文 寛保二壬戌  
四月 施主  
浅間塚中  
所在地 仁礼町浅間塚  
備考 頭部の馬は後補か



番号 馬92  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型彫り込み半肉浮彫り立像  
法量 約高68cm 像高51cm  
銘文 天明七年□□  
所在地 仁礼町瀬ノ協入口  
備考 他に道祖神が一基併置されている



番号 馬93  
名称 馬頭観世音  
種別 観世音  
形態 舟型浮出し半肉彫り立像  
法量 像高44cm  
銘文 なし  
所在地 仁礼町仙仁仙仁橋

号  
馬94  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 台付立石文字彫り込み  
 法量 高61cm 像高45cm  
 銘文 昭和十年  
       馬頭観世音  
       七月吉日 平和氏  
 所在地 仁礼町仙仁田ノ入  
 備考 同所には他に唐申塔他あり。



号  
馬95  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 石標型文字彫り込み  
 法量 像高87cm  
 銘文 昭和七年  
       馬頭観世音  
 所在地 仁礼町仙仁字田ノ入仙仁川添



号  
馬96  
 名称 馬頭観世音  
 種別 観世音  
 形態 角型文字彫り込み  
 法量 高120cm 像高83cm  
 銘文 昭和廿四年 十一月卅一日  
       馬頭観世音  
       昭和廿五年 十月卅一日  
       田中啓吉建之  
 所在地 仁礼町仙仁湯河原橋上



## あとがき

昭和49年、須坂市文化財第3集「年中行事編」を刊行してから早くも5年が経過いたしました。その間文化財調査員さんには昭和49年・50年と2ヶ年にわたって、市内の石造文化財の調査をお願いしました。石造文化財は種類・量ともに非常に多く、各所に散在しているため大変な仕事ではありました。調査員さんの献身的な努力により、昭和50年には分布地図がほぼ完成いたしました。その後から事務局では、個々の写真撮影や計測等をはじめたわけですが、事務処理が空いたときに片手間仕事として行っており、また量的にも非常に多いことからなかなか進みませんでした。加えて、この頃から開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査が毎年行われるようになり、ますます遅れてしまいました。しかしお骨折りをいたいたした調査員さんの苦労に報いるには1日でも早くこれをまとめて出版すべきものと考え、昭和52年末ほぼ3分の2が終了した時点で、はじからすべてを調査することは一応打ち切り、とりあえずその一部の各種親世音及び馬頭親世音をとりまとめるにいたしました。したがって未調査地域3分の1は親世音と馬頭親世音だけを調査したわけです。この作業が昨年末ようやく終了し、今般刊行できることになりました。ようやく肩の荷が半分おりたような気がいたします。しかし今回登載したものはごく一部ですので、まだ沢山残っています。これらもなるべく早急にまとめて刊行する予定です。

最後に、直接本調査に当られた須坂市文化財調査員各氏、また概観を書いていただいた会長の徳永哲夫氏、そして全体を校閲していただき序文をお寄せいただいた長野県文化財保護審議会委員米山一政先生に厚く御礼申しあげます。

昭和55年2月15日

須坂市教育委員会社会教育課長

竹前福治

須坂市文化財調査報告第4集

## 須坂市の石造文化財

その1

観世音・馬頭観世音

昭和55年3月15日発行

発行 須坂市教育委員会(社会教育課)

長野県須坂市大字須坂1528-1

電話 02624(須坂局) 5-1400

内線163

印刷 佐藤印刷株式会社

長野県須坂市大字須坂1231

電話 02624(須坂局) 5-0112(代)

